（様式１）

令和３年度　学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立錦糸小学校
校長名	伊藤　康次

１　本校の学力に関する状況

（１）墨田区学習状況調査結果から

成　　果	課　　題
・算数は、どの学年も目標値に達しており、全国平均と比べても同等かそれ以上である。また、どの学年も４割以上の児童が前年度より正答率が上がっている。 ・全国平均との差では、３観点のうち「思考・判断・表現」がどの学年も高くなっている。 ・上の学年になるほど、学力下位層の割合が減っている。	・４年生以上で理科の正答率が全国平均を下回っているため、「知識・技能」を中心に理科の正答率を上げる。 ・国語において、３～５学年で「書く」領域の正答率が前年度より下がっているため、書く活動を重視する。

（２）意識調査結果から

成　　果	課　　題
・対人ストレスを感じる度合いが低く、他者の支え（特に友達の支え）を強く感じている。また、他者からの評価も十分に感じることができている。 ・自分の思いや考えを発信できていると感じている児童が多い。	・成功体験を自信につなげることができていない児童がいるため、教師が児童の成功体験から成長を価値づけることで、児童の自信を深めることにつなげていく。 ・学習習慣が整っていない児童がいるため、家庭学習を中心に日々の学習状況を把握し、個別に指導する。

（３）墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成　　果	課　　題
・様々な感覚を通した学習活動や、体験的な活動に対して、意欲的に取り組んでいる。 ・タブレット端末（学習アプリ）を活用した家庭学習に意欲的に取り組む児童が多い。 ・ドリルなどの反復学習には、黙々と取り組んでいる。	・自分の意見に自信がもてず、表現することに抵抗を示す児童がいるため、児童に自信をつけていく必要がある。 ・特定の児童が、家庭学習に取り組むことができていないため、個別の指導を行う必要がある。

２　本年度の学力向上に関する主な取組

（１）探究的、課題解決的な学習を全教科で展開する。

教師が一方的に教えたり、学習活動を与えたりするのではなく、児童の気付きや疑問、体験的な活動を大切にし、それを基にした探究的、課題解決的な学習活動を児童とともに作り上げていく。更に、学習活動を進める際に、児童が他者と協働して直面する課題を解決していけるように、授業の改善に努める。

（２）理科において、児童の思考の流れを意識した授業づくりを行う。

教師主導で教科書の内容を教え込むのではなく、次のような学習の流れを大切にする。

①単元の導入時に、学習につながる科学的事象に児童が触れられるようにする。

②児童の気付き、疑問から学習課題を設定する。

③学習課題に対して根拠をもって予想を立てる。

④予想の検証方法を児童が考え、その結果を予想する。

⑤実験や観察を通して、検証する。

⑥検証結果から課題について分かることを考察する。

これら、児童の予想、仮説を基にした実験・観察を通して、理科の基礎学力を高める。また、単元の終わりに日常生活にフィードバックしたり、ふりかえりシートを活用したりすることで、既習内容（主に知識・技能）の定着を図る。

（３）全教科・領域において、自分の考えを書く活動を取り入れた授業づくりを行う。

学習問題･学習課題を自力解決する場面や検証結果から考察する場面､振り返りの場面などで、自分の考えや分かったことなどを書く活動を適宜設定することで、文字で表現する力を伸ばしていく。また、書いたことを発表につなげることで、児童が自分の意見に自信をもてるようにしていく。

更に、単元の内容によっては、単元の終わりに学習の成果を長文で書く時間を設けることで、自分の成長を確認できるようにもする。

３　「令和４年度　墨田区学習状況調査」における目標

・Ｅ層の割合を０にし、Ｄ層からＣ層への割合を増やす。

・理科の全観点の正答率を全国平均以上、もしくは、目標値以上にする。

・国語科の「書く」領域の正答率を、全国平均と同程度かそれ以上にする。